

〇〇〇〇学級 国語科学習指導案

福岡市立〇〇〇小学校 〇〇〇〇

1 単元名 「その先生は、だれでしょう」

2 単元の展開にあたって

— 題材のよさ —

本題材は、「その先生は、だれでしょう」という説明文を読み、クイズと答えを挿し絵や写真や言葉で作って、クイズ大会でお互いの作った説明文を読みあっていくものである。つまり、教材文の説明文を読み取ることで、挿し絵や写真と語句カードや文ードで先生クイズや答えにまとめて説明文の特徴と構成を知り、新たな先生を取材して、読み取った教材文の説明文の特徴と構成を生かして、先生クイズや答えを自分達で作って表現し合う活動である。

本題材は、学校で働いている身近な先生達についての説明文であるから、子ども達の興味関心が高く、絵や写真から想像をふくらませやすく、内容の読み取りがしやすいこと、先生に関する事物名称語や動作語を取り上げるので、個に応じて扱う語句や文を取り上げて教材文を作りやすいこと、前のページの挿し絵と文で問いかけをして、次のページで答えながら説明するという構成を繰り返すことで、子ども達が、謎解きをするように興味を持続することができるのと同時に、説明文の基本文型をとらえやすいこと、問題文では、仕事場にある特徴的な物や仕事に使う物を事物名称語で表現し、答えの文では、先生が仕事をしている姿を動作語や語連鎖や2～多語文で表現することができ、読み取りの語句や文を個に応じて段階的に高めることができること、などの価値がある。

具体的な学習内容は、教材文からクイズや答えを作ること、説明文の内容を読みとること、説明文の基本文型をとらえること、先生に取材して、説明文の基本文型を活用して先生の仕事場や仕事の様子の特徴をとらえたクイズや答えの説明文を作ること、友達の作った説明文を読み合うことである。こららの内容を学習することにより、子ども達は、説明文を意欲的に読み取るとともに、基本文型をとらえて、活用して簡単な説明文で表現することができると思う。そして、子ども達がいろいろな本に興味を持って読書の幅を広げたり、意味理解できる語彙や文を増やしたり、事実を正確に伝えたりできるようになると考える。

— 子どもの実態 —

子ども達は、1年生1人(A児)、2年生1人(B児)、3年生1人(C児)4年生1人(D児,)の計4人で構成されている。言葉の習得の段階は、ひらがなを覚え始めている子どもから、単語レベルの子ども、文を書き始めようとしている子ども、単語の明記や助詞が不確かだが、文を書こうとする子ども、一人で簡単な文を並べて2～多語文で書く子どもと様々である。これまでの経験で、日常生活の中で習慣的に繰り返されている動き、生活場面の中で体感している事柄については、少しずつ言葉と結びついている。文字や文章ばかりでなく、挿し絵や記号も併せて読むことで意味理解を深めているようである。学習に取り組む姿は、友だちがすることが気になり、なかなか集中できない子ども、やり方がわかると意欲的に取り組む子ども、自分なりに目標を持って学習を進めることができる子どもと様々である。詳しい個別の実態は、次の通りである。

	読 む	書 く	伝 え 合 う
A 児 1 年			
B 児 2 年			
C 児			

3年			
D児 4年			

学習内容と指導・支援の考え方

本題材の指導にあたっては、一人一人の語彙習得や読み書きの実態に応じて、取り上げる語句や文の量を考慮して、三つのパターンの教材本を用意する。

A児・C児には、ひらがなの五十音を習得中の段階や単語を書き始めた段階の子ども用として、単語のみの説明本とする。B児には、一語文を書き始めた段階の子ども用として、簡単な事物名称語と動きを表す語連鎖で表す説明本とする。D児には、簡単な文を書き始めた段階の子ども用として、助詞を使った簡単な2～3語文を入れた説明本とする。

最初に、かまえる段階では、「先生クイズ」づくりをしてクイズ大会をする活動の見通しを持たせる。そのために、4つの部屋と人物の後ろ姿の挿し絵を提示して興味を持たせ、「その先生は、だれでしょう」の説明文と一緒に読み、感想を出し合わせる。そして、挿し絵に事物名称語を書かせたり、クイズを作りたい先生を発表させたりして、「先生クイズ」づくりに興味と見通しを持たせる。

次に、ふかめる段階では、「先生クイズ」づくりを通して、教材文を読んで、挿し絵と事物名称語や動作語や文を結んで意味理解する。教材文から好きな語句や文を抜き出して、「先生クイズ」を作る。作ったクイズノートを発表して読み合う。という一連の活動を繰り返すことで、説明文の基本文型について理解させ、説明文の読み取り方を身につけさせる。そして、説明文の基本文型を活用して自分で先生に取材をしたことをもとに、「先生クイズ」と答えの説明文を作らせ、事実を正確に表現するようにする。また、「問題文と答え」が呼応したクイズ形式の説明文を繰り返し読んだり、好きな語句や文を抜き出したり書いたりすることで、説明文を読んだり書いたりする楽しさを味わわせていく。そのために、個の読みとりや「先生クイズ」づくりの支援を以下のようにする。

- ・ A児は、事物名称語や動作語の語句カードを選択させて、語句をなぞり書きさせて「先生クイズ」づくりをさせる。また、語句に挿し絵と音声カードをつけて、語句の選択のヒントとする。
- ・ B児は、教材文から先生の仕事場にあるものや仕事の内容を表す特徴的な事物名称語や動きのことばや文を取り出して、「先生クイズ」づくりをさせる。また、挿し絵を取り出した語句カードや文カードを用意し、文選択のヒントとする。傍点を打っておき、助詞の使い方に気をつけて文づくりをさせる。
- ・ C児は、教材文から先生の仕事場にあるものや仕事の内容を表す特徴的な事物名称語や動きのことばを取り出して、「先生クイズ」づくりをさせる。また、語句に挿し絵をつけた語句カードを用意し、語句の選択のヒントとする。
- ・ D児は、教材文から書きたい文に線を引かせ、文を視写させて、自分で考えた文を書かせたりして「先生クイズ」づくりをさせる。文を考えさせる時は、挿し絵をもとに何があるのかやをしているのかを話させることで、書く内容を明確にしてから文を書かせる。

最後にまとめの段階では、説明文を読んだり書いたりすることができた達成感を味わわせる。そのために、友達が作った「先生クイズ」を発表し合うクイズ大会を設定して、友達から「先生クイズ」のおもしろかったところの感想を聞く。感想の出し方のモデルとして教師が見本を見せることで、子ども達の発言を促す。さらに、みんなの作った「先生クイズ」をまとめて「クイズ集」にして、交流学級の先生や友だちに発表・表現するクイズ大会を設定する。そうすることで、「先生クイズ」を賞賛してもらうようにし、達成感を味わわせるようにする。

3 単元の目標

説明文を楽しんで読み進め、自分の考えたクイズを説明文の基本文型を活用して表現しようとすることができる。

挿し絵と語句をむすんで意味を読みとったり、説明文の基本文型を活用して正確に事実を伝えたりすることができる。

4 学習計画（全11時間）

段階	時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点(伝え合う力を育てる支援 評価)
か ま え る	1 / 11	1 本時のめあてを確認する。	
		「その先生は、だれでしょう。」のお話を読もう	
		2 4つの挿し絵を見て、誰先生の部屋か考える。 お話に興味を持つ。	挿し絵の中にある特徴的なものを、指さして注目させて、事物名称を発表させ、クイズに興味を持つように促す。
		3 「その先生は、だれでしょう」の教材文を読み、感想を発表する。 挿し絵から特徴的な物を読みとる。 文章から「だれでしょう」「せんせい」が繰り返されていることに気づく。	文章を音読する際、「だれでしょう」「せんせい」の繰り返される部分を強調して読み、着目させるようにする。 「だれでしょう」「せんせい」の問いと答えの繰り返しに気づくことができる。
		4 4つの挿し絵の物の名称を確認する。 部屋の特徴に気づき、教材文を読むことや「先生クイズ」づくりに関心を持つ。	挿し絵の物の名称を確認する時は、以下の個別のヒントカードを用意する。 A児・B児・C児：物の名称を表す語句カード 挿し絵に物の名称を書き、その部屋の特徴をとらえることができる。
5 本時の学習を振り返り、クイズにしたい先生について発表する。 教材文を読むことに関心を持ち、次時の活動の見通しを持つ。	教材文は、3パターン作って提示する。		
ふ か め る	2 / 11	1 本時のめあてを確認する。 クイズづくりの意欲と見通しを持つ。	
		「校長先生のクイズ」をつくろう。	
		2 「その先生は、だれでしょう」の文を音読し、文章構成をつかむ。 A・Cの教材本で、事物・人の動きをつかむ。 B・Dの教材本を音読する。 問いと答えの文のまとまりに気づく。	個に応じて言葉かけをして、ことばを引き出し、挿し絵から特徴的なものや先生の一挙一動を捉えさせる。
3 「校長先生」のクイズの問題文を作る。 (1) 問題文で大事な語句や文に線を引く。 部屋の特徴をあらわす語句や文に気づく。 (2) 挿し絵に言葉を書き入れる。 「でんわ」「ソファー」「つくえ」「パソコン」「たな」「ほん」「おきゃくさん」など 挿し絵から部屋の様子をとらえる。 (3) 問題文を書いて読む。	個別の実態に応じて、文字のなぞりや語句や文の書き込みのできるクイズノートを提示して、説明文を書くことを促す。 挿し絵に物のことばを書き入れる時は、以下の個別のヒントカードを用意する。 A児：なぞり書きができる語句カード B児・C児：物の名称を表す語句カード (視写用)		

	<p>説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>4 校長先生のクイズの答えの文を作る。 (1) 答えの文で大事な語句や文に線を引く。 校長先生がしていることをあらわす語句や文に気づく。 (2) 挿し絵にしていることを書く。 「はなしている」「おきゃくさんとはなしている」「でんわをしている」「パソコンをしている」「ほんをよんでいる」など 挿し絵からしていることをとらえる。 (3) 答えの文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、お互いの「先生クイズ」を発表し合う。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>問題文や答えの文を書く時は、以下の支援をして説明文を書く手がかりにする。 A児：なぞり書きができる語句カード（挿し絵と音声カードつき） B児：文カード 助詞に傍点をうって、助詞の使い方に気をつけさせるようにする。 C児：物の名称や様子を表すを表す語句カード D児：書きたい文に線を引かせ、文を視写させることで、書くことを明確にさせる。</p> <p>教材文をもとに、自分なりに問いと答えのまとまりで書き表している。</p> <p>各自できたクイズノートを発表させ、表現のよさを取り上げて賞賛する。 自分のクイズノートを、喜んで発表している。</p>
	<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	
ふ か め る 3 / 11	<p>「用務員の先生のクイズ」をつくろう</p>	
	<p>2 「その先生は、だれでしょう」の文を音読し、文章構成をつかむ。 A Cの教材本で、事物・人の動きをつかむ。 B・Dの教材本を音読する。 問いと答えの文のまとまりに気づく。</p> <p>3 「用務員の先生」のクイズの問題文を作る。 (1) 問題文で大事な語句や文に線を引く。 部屋の特徴をあらわす語句や文に気づく。 (2) 挿し絵に言葉を書き入れる。 「かなづち」「ペンキ」「ほうき」「はしご」「ワックス」「ガラス」など 挿し絵から部屋の様子をとらえる。 (3) 問題文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>4 用務員の先生のクイズの答えの文を作る。 (1) 答えの文で大事な語句や文に線を引く。 用務員の先生がしていることをあらわす語句や文に気づく。 (2) 挿し絵にしていることを書く。 「ワックスをぬる」「しゅうりをする」「ごみをかたづける」「たなをつくる」「くさをかき取る」など 挿し絵からしていることをとらえる。</p>	<p>個に応じて言葉かけをして、ことばを引き出し、挿し絵から特徴的なものや先生のしていることを捉えさせる。</p> <p>個別の実態に応じて、文字のなぞりや語句や文の書き込みのできるクイズノートを提示して、説明文を書くことを促す。 挿し絵に物のことばを書き入れる時は、以下の個別のヒントカードを用意する。 A児：なぞり書きができる語句カード B児・C児：物の名称を表す語句カード（視写用） 問題文や答えの文を書く時は、以下の支援をして説明文を書く手がかりにする。 A児：なぞり書きができる語句カード（挿し絵と音声カードつき） B児：文カード 助詞に傍点をうって、助詞の使い方に気をつけさせるようにする。 C児：物の名称や様子を表すを表す語句カード D児：書きたい文に線を引かせ、文を視写させることで、書くことを明確にさせる。</p>

	<p>(3) 答えの文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、お互いの「先生クイズ」を発表し合う。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>教材文をもとに、自分なりに問いと答えのまとまりで書き表している。</p> <p>各自できたクイズノートを発表させ、表現のよさを取り上げて賞賛する。 自分のクイズノートを、喜んで発表している。</p>
	<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	
ふ か め る	<p>「情報アドバイザーの先生のクイズ」をつくろう</p>	
	<p>2 「その先生は、だれでしょう」の文を音読し、文章構成をつかむ。 A Cの教材本で、事物・人の動きをつかむ。 B・Dの教材本を音読する。 問いと答えの文のまとまりに気づく。</p>	<p>個に応じて言葉かけをして、ことばを引き出し、挿し絵から特徴的なものや先生のしていることを捉えさせる。</p>
	<p>3 「情報アドバイザーの先生」のクイズの問題文を作る。</p> <p>(1) 問題文で大事な語句や文に線を引く。 部屋の特徴をあらわす語句や文に気づく。</p> <p>(2) 挿し絵に言葉を書き入れる。 「パソコン」「プリンター」「ホワイトボード」「ローマ字ひょう」「キーボードひょう」「たな」など 挿し絵から部屋の様子をとらえる。</p> <p>(3) 問題文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>4 情報アドバイザーの先生のクイズの答えの文を作る。</p> <p>(1) 答えの文で大事な語句や文に線を引く。 情報アドバイザーの先生がしていることをあらわす語句や文に気づく。</p> <p>(2) 挿し絵にしていることを書く。 「パソコンをおしえる」「いんさつをする」「ゲームをおしえる」「みんなのさくひんをみせる」など 挿し絵からしていることをとらえる。</p> <p>(3) 答えの文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、お互いの「先生クイズ」を発表し合う。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>個別の実態に応じて、文字のなぞりや語句や文の書き込みのできるクイズノートを提示して、説明文を書くことを促す。</p> <p>挿し絵に物のことばを書き入れる時は、以下の個別のヒントカードを用意する。 A児：なぞり書きができる語句カード B児・C児：物の名称を表す語句カード (視写用)</p> <p>問題文や答えの文を書く時は、以下の支援をして説明文を書く手がかりにする。 A児：なぞり書きができる語句カード(挿し絵と音声カードつき) B児：文カード 助詞に傍点をうって、助詞の使い方に気をつけさせるようにする。 C児：物の名称や様子を表す語句カード D児：書きたい文に線を引かせ、文を視写させることで、書くことを明確にさせる。</p> <p>教材文をもとに、自分なりに問いと答えのまとまりで書き表している。</p> <p>各自できたクイズノートを発表させ、表現のよさを取り上げて賞賛する。 自分のクイズノートを、喜んで発表している。</p>

ふ か め る	1 本時のめあてを確認する。	
	「6の〇の先生クイズ」をつくろう	
	<p>2 「その先生は、だれでしょう」の文を音読し、文章構成をつかむ。 A Cの教材本で、事物・人の動きをつかむ。 B・Dの教材本を音読する。 問いと答えの文のまとまりに気づく。</p> <p>3 「6の2の先生」のクイズの問題文を作る。 (1) 問題文で大事な語句や文に線を引く。 部屋の特徴をあらわす語句や文に気づく。 (2) 挿し絵に言葉を書き入れる。 「つくえ」「いす」「こくばん」「ほんだな」「ほん」「ともだち」など 挿し絵から部屋の様子をとらえる。 (3) 問題文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>4 6の2の先生のクイズの答えの文を作る。 (1) 答えの文で大事な語句や文に線を引く。 6の2の先生がしていることをあらわす語句や文に気づく。 (2) 挿し絵にしていることを書く。 「こくばんにもじをかいている」「ほんをよんでいる」「べんきょうをおしえている」「サッカーをする」など 挿し絵からしていることをとらえる。 (3) 答えの文を書いて読む。 説明文の基本文型を使ってあらわす。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、お互いの「先生クイズ」を発表し合う。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>個に応じて言葉かけをして、ことばを引き出し、挿し絵から特徴的なものや先生のしていることを捉えさせる。</p> <p>個別の実態に応じて、文字のなぞりや語句や文の書き込みのできるクイズノートを提供して、説明文を書くことを促す。 挿し絵に物のことばを書き入れる時は、以下の個別のヒントカードを用意する。 A児：なぞり書きができる語句カード B児・C児：物の名称を表す語句カード (視写用) 問題文や答えの文を書く時は、以下の支援をして説明文を書く手がかりにする。 A児：なぞり書きができる語句カード(挿し絵と音声カードつき) B児：文カード 助詞に傍点をうって、助詞の使い方に気をつけさせるようにする。 C児：物の名称や様子を表すを表す語句カード D児：書きたい文に線を引かせ、文を視写させることで、書くことを明確にさせる。</p> <p>教材文をもとに、自分なりに問いと答えのまとまりで書き表している。</p> <p>各自できたクイズノートを発表させ、表現のよさを取り上げて賞賛する。 自分のクイズノートを、喜んで発表している。</p>
	1 今まで作った「せんせいクイズ」を見合い、本時のめあてを確認する。	クイズづくりの意欲と見通しを持たせる。 問題文と答えの文の構成に着目させる。
	「すきな先生クイズ」をつくろう (その1 取材活動)	
<p>2 自分が作りたい先生を選び、取材する。 (1) 先生が仕事をしている場所の写真を撮ったり、仕事に使う物の名称をメモしたりする。 仕事場所の特徴を捉える。 (2) 先生が仕事をしている様子の写真を撮った</p>	<p>子ども達と関わりがあり、取材しやすい先生の写真をあらかじめ用意しておき、選択する時の手がかりとする。 写真を撮る時は、クイズにしやすいよう背景や先生の動作やアングルを工夫して撮ることをアド</p>	

11	<p>り、語句や文でメモしたりする。 先生が仕事をしている様子を捉える。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、お互いの「取材したこと」を発表し合う。 取材した達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>バイスする。</p> <p>各自できた取材メモを発表させ、表現のよさを取り上げて賞賛する。 自分の取材メモを、喜んで発表している。</p>
	<p>1 前時まで作った「取材メモ」を見合い、本時のめあてを確認する。</p>	<p>クイズづくりの意欲と見通しを持たせる。 問題文と答えの文の構成に着目させる。</p>
<p>「すきな先生クイズ」をつくろう (その2 クイズづくり)</p>		
ふかめる / 11 本時	<p>2 取材メモをもとに「先生クイズ」の問題文と答えを書く。 説明文の基本文型を活用して表す</p> <p>3 挿し絵に言葉を書き入れる。 「くすり」「でんわ」「えほん」「ばそこん」「やさい」「ともだち」「さんかくじょうぎ」など挿し絵から部屋の様子をとらえる。</p> <p>4 挿し絵にしていることを書く。 (1) 「てあてをしている」「でんわをしている」「よみきかせをしている」「ばそこんをしている」「けんさをしている」「やさいをあらっている」「さんずうをおしえている」「こくごをおしえている」など (2) 挿し絵からしていることをとらえる。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、お互いの「先生クイズ」を発表しあう。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>問題文や答えの文を書く時は、取材メモをもとに以下の支援をして説明文を書く手がかりにする。 A児：なぞり書きができる語句カード（挿し絵と音声カードつき） B児：文カード 助詞に傍点をうって、助詞の使い方に気をつけさせるようにする。 C児：物の名称や様子を表すを表す語句カード D児：取材メモをもとに言葉かけをして先生の仕事について知っていることを聞き出すことで、書くことを明確にさせる。 基本文型を活用して自分なりに、問いと答えの文を作っている。</p> <p>各自できたクイズノートを発表させ、表現のよさを取り上げて賞賛する。 自分のクイズノートを、喜んで発表している。</p>
	<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	
<p>「先生クイズ大会」をしよう</p>		
まとめる / 10 11	<p>2 各自の作った「先生クイズ」を発表したり、クイズに答えたりする。 説明文から先生の特徴をとらえる語句や文を読み取り、クイズの答えを考える。</p> <p>3 友達のクイズの感想を発表し合う。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。</p>	<p>自分の「先生クイズ」を発表させたり、クイズに答えさせることで、説明文を読んだり書いたりする楽しさを味わわせる。 感想の出し方の見本を教師が示すことで、表現のよさの着目の仕方に気づかせ、子ども達の発言を促す。</p> <p>喜んで自分のクイズノートを発表したり、友達のクイズに答えたりしている。 友達の表現のよいところに気づいて発表している。</p>

		1 本時のめあてを確認する。	
		「先生クイズ大会2」をしよう	
ま と め る	11	2 各自の「先生クイズ」をまとめてクイズ集にしたものを、交流学級の友達に発表する。 大勢の人に伝わるように発表する。	自分の「先生クイズ」を発表させたり、友達の「先生クイズ」クイズをクイズ集で読んだりすることで、説明文を読む楽しさを味わわせる。
	11	友達の作ったクイズの文を読んで答えを考える。	
		3 交流学級の先生や友達からクイズの感想を聞き、自分や友達の作った「先生クイズ」を見直す。 クイズを作った達成感を味わう。 表現のよさに気づく。	あらかじめ、交流学級の先生や友達に賞賛する観点を伝えておく。 喜んで自分のクイズノートを発表したり、友達のクイズノートを読んだりしている。 友達の表現のよいところに気づいて発表している。

5 本時 平成20年10月20日(月) 5校時 ○○○○○組教室

6 本時の目標

自分なりに挿し絵とことばをつなぎ、クイズノートにまとめることができる。
自分の伝えたいことを挿し絵や一語文、二～三語文で伝えようとするすることができる。

個別の目標

児童	目 標
A児	教師の問いかけをたよりに、教師と一緒に挿し絵や写真を見ながら、先生や仕事の特徴を見つけ、挿し絵や写真でクイズノートにまとめる。
B児	教師の指さしや問いかけをたよりに、教師と一緒に挿し絵や写真を見ながら、先生や仕事の特徴を見つけ、事物名称語や動きの言葉に着目して単語でクイズノートにまとめる。
C児	教師の指さしや問いかけをたよりに、教師と一緒に挿し絵や写真を見ながら、先生や仕事の特徴を見つけ、助詞に気を付けて、動きの言葉に着目しながら一～二語文でクイズノートにまとめる。
D児	挿し絵や写真を見ながら、先生や仕事の特徴を見つけ、二～三語文でクイズノートにまとめる。

7 本時学習を進めるにあたって

子ども達は、前時まで、「その先生は、だれでしょう」のお話に出会い、読み取ったことを問題文と答えの文にまとめ、クイズノート作りをしている。そして、自分でクイズを作りたい先生を決め、その先生について取材している。

本時は、取材メモをもとに、挿し絵や写真とことばをつないで、問題文と答えの文で書き表させていく。問題文では、挿し絵をもとに、その先生がいつもいる場所の特徴に着目させ、その場にある物を表現させていき、「その先生はだれでしょう」につないでいく。答えの文は、問題文に出てきたものと関係づけながら、先生の特徴的な動きを説明していくようにする。

一人ひとりが、ことば(事物名称語、動きのことば)と対応させながら、クイズノートに書きまとめていくことができるようにしていきたい。

導入の段階では、一人一人に応じた表現活動を見通しさせるために、前時で取材したことを思い出し、取材メモや挿し絵や写真、聞き取った言葉を確認させるとともに、問題文、答えの文の構成に着目させる。

次に、挿し絵や写真と照らし合わせながら、聞き取った言葉が、問題文に当たるのか、答えの文に当たるのかを分類し、ことばとつないで書き表させたい。そうして、一人一人に応じた表現活動ができるようにしていく。

展開の段階のクイズノート作りでは、一人一人の実態に応じたクイズノートを準備する。A児は、自分が選んだ先生の挿し絵や写真を選び、仕事場のものの絵を貼り、その名前を言ったり、簡単なひらがなをなぞり書きしてまとめさせたい。B児は、自分が選んだ先生の挿し絵や写真を選び、仕事場のものの絵を貼り、問題文と答えの文に分けて、助詞に気を付けて、一語文でまとめさせたい。C児は、自分が選んだ先生の挿し絵や写真を選び、仕事場のものの絵を貼り、その名前を言ったり、事物名称語や動きのことばで書いてまとめさせたい。D児は、自分が選んだ先生の挿し絵や写真を選び、仕事場のものの絵を貼り、問題文と答えの文に分けて、二～三語文でまとめさせたい。

そして、振り返りの段階では、それぞれが作り上げたクイズノートを発表させ、達成感を味わわせたい。更に、取材のよさや表現のよさを賞賛する。

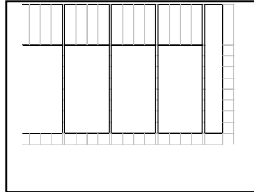
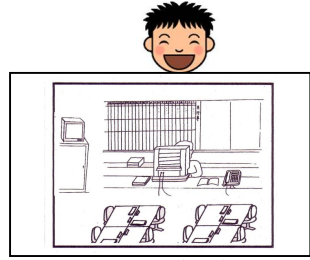
きょうのがくじょう

くいずができてたのしかったです。

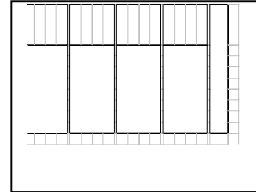
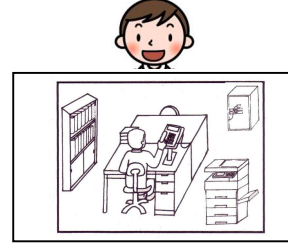
はをがにきをつけてくいずづくりができました。

クイズがつくれたのしかったです。

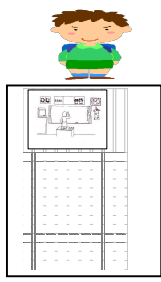
とこの文とこたえの文に気を付けて文をかいてができました。



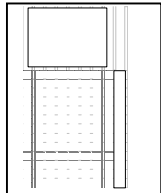
こたえ



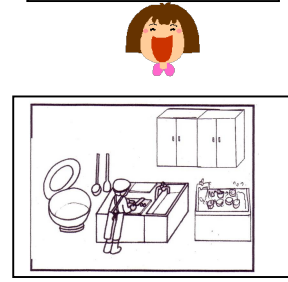
こたえ



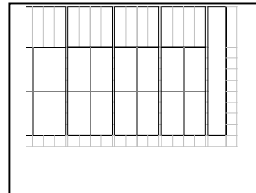
もんだい



こたえ



もんだい



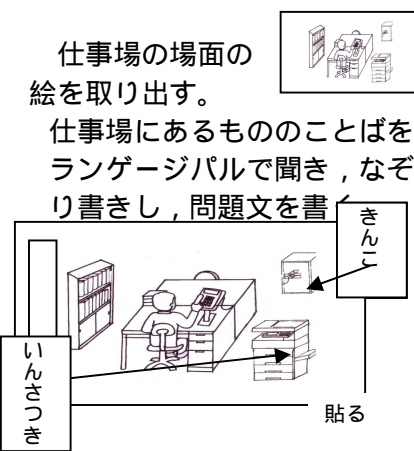
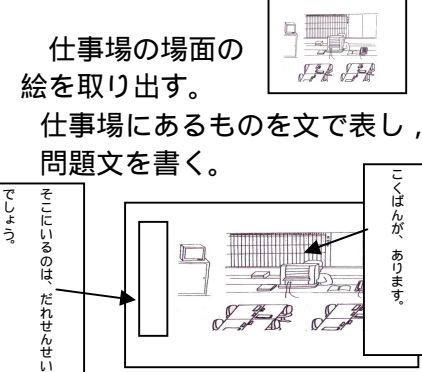
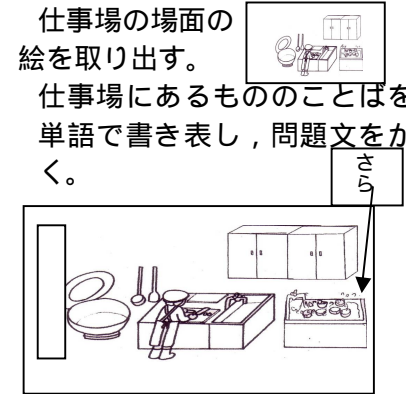
こたえ

めあて
クイズをつくらう。(もんだいとこたえのぶんをつくらう。)

せんせい
きょうせんせい
せんせい
せんせい
せんせい

せんせいのクイズをつくらう。
きょうせんせいのクイズをつくらう。
せんせいのクイズをつくらう。
せんせいのクイズをつくらう。
せんせいのクイズをつくらう。

9 本時の展開 (9/11)

配時	主な学習活動と内容																																		
8	1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (1) 取材した絵や写真、ことばを確認する。 (ア) 自分でクイズを作りたい先生の取材活動をしたこと ・ 取材メモに書いたことを想起する。 (2) 問題文と答えの文を確認して、クイズの文の構成をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">すきなせんせいクイズをつくろう。</div>																																		
5	A 児	B 児	C 児																																
2 5	(1) 取材ノートを見て、問題文と答えの文を確認する。 ・ そのせんせいは、だれでしょう。 ・ それは、せんせいです。																																		
	(2) 取材したことをクイズノートにまとめる。 仕事場の場面の絵を取り出す。 仕事場にあるものことばをランゲージパルで聞き、なぞり書きし、問題文を書き表す。  クイズノートに写真を貼り、仕事の様子のことばをランゲージパルで聞き、答えの文を書き表す。 <table border="1" data-bbox="183 1433 590 1736"> <tr> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>そのせんせいは、おかわらせんせいです。</td> </tr> <tr> <td>おかねをかぞえる</td> <td>ばそこんをする</td> <td>けいさんをする</td> <td>いんさつをする</td> <td>でんわをかける</td> <td></td> </tr> </table> まとめたノートを読んで見直す。	写真	写真	写真	写真	写真	そのせんせいは、おかわらせんせいです。	おかねをかぞえる	ばそこんをする	けいさんをする	いんさつをする	でんわをかける		(2) 取材したことをクイズノートにまとめる。 仕事場の場面の絵を取り出す。 仕事場にあるものを文で表し、問題文を書く。  クイズノートに写真を貼り、答えの文を書き表す。仕事の様子を書き表す。 <table border="1" data-bbox="606 1310 1037 1624"> <tr> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>そのせんせいは、きょうとうせんせいです。</td> </tr> <tr> <td>するきょうかのそうじんをい</td> <td>ぎきょうとうじをかきま</td> <td>できょうとうをします</td> <td>ばきょうとうをします</td> <td></td> </tr> </table> まとめたノートを読んで見直す。	写真	写真	写真	写真	そのせんせいは、きょうとうせんせいです。	するきょうかのそうじんをい	ぎきょうとうじをかきま	できょうとうをします	ばきょうとうをします		(2)取材したことをクイズノートにまとめる。 仕事場の場面の絵を取り出す。 仕事場にあるものことばを単語で書き表し、問題文をかく。  クイズノートに写真を貼り、答えの文を書き表す。仕事の様子を書き表す。 <table border="1" data-bbox="1077 1388 1476 1680"> <tr> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>そのせんせいは、もりたせんせいです。</td> </tr> <tr> <td>さらをあらう</td> <td>りょうりをする</td> <td>やさいをきる</td> <td>やさいをあらう</td> <td></td> </tr> </table> まとめたノートを読んで見直す。	写真	写真	写真	写真	そのせんせいは、もりたせんせいです。	さらをあらう	りょうりをする	やさいをきる	やさいをあらう	
写真	写真	写真	写真	写真	そのせんせいは、おかわらせんせいです。																														
おかねをかぞえる	ばそこんをする	けいさんをする	いんさつをする	でんわをかける																															
写真	写真	写真	写真	そのせんせいは、きょうとうせんせいです。																															
するきょうかのそうじんをい	ぎきょうとうじをかきま	できょうとうをします	ばきょうとうをします																																
写真	写真	写真	写真	そのせんせいは、もりたせんせいです。																															
さらをあらう	りょうりをする	やさいをきる	やさいをあらう																																

7	<p>3. 本時学習を振り返り，次時の見通しを持つ。</p> <p>(1) 本時学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズノートを発表・表現する。 <p>(2) それぞれの表現のよさを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現のよさを出し合う。
---	--

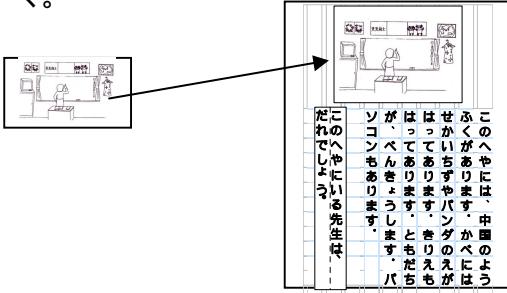
主な学習活動と内容	指導上の留意点（ 伝え合う力を育てる支援 評価 ）
	<p>前時までに作ったそれぞれの取材メモを提示する。</p> <p>問題文と答えの文からクイズが成り立っていることを確認する。</p> <p>クイズの作り方の各自の手順を提示して，活動の見通しを持たせる。</p> <p>子ども達が，取材した内容を確認できる。</p> <p>クイズづくりの構成をつかみ，クイズづくりを見通すことができる。</p>
D児	<p>A・B・C児：教師の指さしや問いかけをたよりに，取材メモの問題文と答えの文を確認する。</p> <p>D児：自分の取材メモを見ながら問題文と答えの文に分ける。</p>

(2) 取材したことを問いのまとまりと答えのまとまりに分けてクイズノートにまとめる。

仕事場の場面の絵を取り出す。

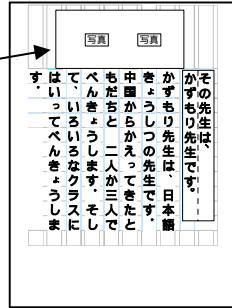


仕事場にあるものを文で表し、問題文を書く。



クイズノートに写真を貼り、答えの文を書き表す。仕事の様子を
書き表す。

写真



まとめたノートを読んで見直す。

絵や写真，ことばや文を頼りに取材メモを分けることができる。

A 児：ランゲージパルを聞いて、自分で書くことができるように、なぞり用のカードを用意しておく。

C 児：一人で書けない文字・単語については、ヒントカードの中から選ばせ、見ながら書かせる。

B・D 児：前時に書いた取材メモをもとに、文を作らせる。

B 児：助詞が間違っている時は、一緒に読み間違いに気づかせ、文ヒントカードで確認し訂正する。

自分で、クイズノートに書き表すことができる。
(学習プリント分析)

書いたものを読み直し、間違いに気づかせたり、付け加えさせたりする。

自分の書いた物を読み直すことができる。

各自のできたクイズを賞賛し、それぞれの表現のよさに気付かせる。

自分が書いたものを伝えることができる。
(発言内容分析)

相手の発表していることを内容をつないで聞いている。

(態度分析)